

確かな歴史を明日につなぐ ZAP2006 転機の年にしよう



発行所
東京都千代田区霞ヶ関
財務ビル内(〒100-0013)
全国税労働組合
発行人 岡田 俊明
電話(03)3581-3678
FAX(03)3507-0886
振替口座 00140-2-68514

“税務の職場”
何でも110番
zenkokuzei@aol.com

全国税は、職場で起こった問題を解決するため「税務の職場、何でも110番」を常時設置しています(電話とFAXは上記の番号までどうぞ)。

全国税ホームページ
http://www.kakko-net.org/zenkokuzei

1947.1.13「全財」結成大会



1954.12国税庁前座り込みで+アルファ-30時間勝ち取る



1955.10国税庁正面に大懸垂幕勤務評定やめると闘争



1955.7 連日の長官交渉下・夏期手当受給で平田長官と握手



1953.12長官室前座り込み未払超勤を支給させる



1954.6東京局前昇給停止改善

右・1953・12勤評反対で庁の廊下をデモ
左・1958・12全国税単一化の大会

60年前、国税職場に初めて組合がつくられた。ゼロからのスタートであった。すぐさま、税務水準差25%を勝ち取った。私たちはこのときの恵をいま受けている。全財から日

財へ、そして全国税へと、国税の労働組合運動の本流は受けつがれた。いま、社会も職場もおかしい。仕事で「背任罪」を問われ、降格や処分が横行。恐怖が渦巻く社会や職場は異常だ。安心して生活できる社会、不安なく働ける職場を作ろう。私たち全国税

と共。全国税の仲間と共に。働くものすべてが、発言し行動することを求められている。今年を転機の年に。

右・1966京都メーデー
下・1975・5国税マ

川長官との交渉



右・60年安保闘争で大蔵省南門でピケ
左・安保反対で浅沼委員長(社会党)に署名を渡す全国税代表



左・1965.5ベトナム反戦でデモ
右・1970.4沖縄復帰闘争で那覇市を行進



年頭のごあいさつ

中央執行委員長 岡田俊明



新年明けましておめでとうございます。暮れには驚かされる事件が続きました。悲惨な事件もありましたが、特に耐震構造偽造事件とみずほ証券の入力ミスによる巨額損失事件には、こんな社会にするためにわれわれは働いてきたのだろっか、と虚脱感さえ覚える衝撃がありました。

加えて、にわかに降って湧いた休息時間取り上げの人事院提案にはストリートに怒りが沸き起こりました。職員はみな、抗するまです。法ができて労働者が労働組を作ったに抗するまです。マルクスの資本論を思い出しました。ふと、若き日に読んだマルクスの資本論を思い出しました。革命時代のイギリスの事態が現代日本に再現されているのでは、と。工場労働者が労働組を作ったに抗するまです。マルクスの資本論を思い出しました。ふと、若き日に読んだマルクスの資本論を思い出しました。

黙ってしまったと見込んでいたのなら大間違い。あらゆる公務員職場から反対の声があがって当然です。賢明な「全国税」読者諸氏はお気づきです。あらためて労働組合が必要なのではないでしょうか。術のないまま労働時間延長の波に飲み込まれていくのを避けたい。今年も全国税へのご支援、ご協力をお願いいたします。

新しい年が皆様にとって最良の年となりますよう、願ってやみません。本年も全国税へのご支援、ご協力をお願いいたします。

2006年1月



民主化を求める国会議員の調査団
当局は調査を拒否



上・1991.6.22行二職の待遇改善求め毎年開催する集会
下・1960.11第1回全国婦人代表者会議



上・1960.10第1回税研全国集会
下・1986.12小倉政府税調会長に申し入れ。全国税の話をしつづける会長



上・2003.10日曜開庁反対で東京局前連日ピラマキ
下・2001.5長官署名1万名分を長官に渡す



上・2004.8明るい笑顔の全国大会
下・1998.5『あきらめないで父さん』出版記念集会。これにより単身赴任原則2年と内示日拡大勝ち取る

憲法を守る 平和を守る

「九条の会」アピール

日本国憲法は、いま、大きな試練にさらされています。ヒロシマ・ナガサキの原爆にいたる残虐な兵器によって、五千万を越える人命を奪った第二次世界大戦。この戦争から、世界の市民は、国際紛争の解決のためであつても、武力を使うことを選択拒絶すべきではないという教訓を導きました。侵略戦争をしつづけることで、この戦争に多大な責任を負った日本は、戦争放棄と戦力を持たないことを規定した九条を含む憲法を制定し、こうした世界の市民の意思を実現しようと決心しました。

しかるに憲法制定から半世紀以上を経たいま、九条を中心に日本国憲法を「改正しようとする動きが、かつてない規模と強さで台頭しています。その意図は、日本を、アメリカに従って「戦争をする国」に変えようとするところにあります。そのために、集団的自衛権の容認、自衛隊の海外派兵と武力の行使など、憲法上の拘束を事実上破ってきています。また、非核三原則や武器輸出の禁止などの重要施策を無きものにしてしまっています。そして、子どもたちを「戦争をする国」を担う者にするために、教育基本法をも変えようとしています。これは、日本国憲法が実現しようとしてきた、武力によらない紛争解決をめざす国の在り方を根本的に転換し、軍事優先の国家へ向かう道を歩むものです。私たちは、この転換を許すことはできません。アメリカのイラク攻撃と占領の泥沼状態は、紛争の武力による解決が、いかに非現実的であるかを、日々明らかにしています。なにより武力の行使は、その国と地域の民衆の生活と幸福を奪うことでしかありません。一九九〇年代以降の地域紛争への大国による軍事介入も、紛争の有効な解決にはつながりませんでした。だからこそ、東南アジアやヨーロッパ等では、紛争を、外交と話し合いによって解決するための、地域的枠組みを作る努力が強められています。

二〇世紀の教訓をふまえ、二一世紀の進路が問われているいま、あらためて憲法九条を外交の基本にすることの大切さはつきりしてきています。相手国が歓迎しない自衛隊の派兵を「国際貢献」などと言つのは、思ひ上がりでしかありません。憲法九条に基づき、アジアをはじめとする諸国民との友好と協力関係を発展させ、アメリカとの軍事同盟だけを優先する外交を転換し、世界の歴史の流れに、自主性を発揮して現実的にかかわっていくことが求められています。憲法九条をもつこの国だからこそ、相手国の立場を尊重した、平和的外交と、経済、文化、科学技術などの面からの協力ができるのです。

私たちは、平和を求める世界の市民と手をつなぐために、あらためて憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えます。そのためには、この国の主権者である国民一人ひとりが、九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していく必要があります。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るといふ一点で手をつなぎ、「改憲」のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いままさく始めることを訴えます。

二〇〇四年六月一〇日

井上ひさし(作家)・梅原猛(哲学者)・大江健三郎(作家)・奥平康弘(憲法研究者)・小田実(作家)・加藤周一(評論家)・澤地久枝(作家)・鶴見俊輔(哲学者)・三木睦子(国連婦人会)

Copyright (c) 「九条の会」 Allright reserved.

改憲を許してよいのか

政府与党は、もうすぐ改憲の足音が高く響き始める通常国会で改憲手続きを定める「国民投票法案」を組上に乗せようとしている。そのあとに狙うのは、自民党が正式に発表した「新憲法草案」なるものによる現憲法の全面改定である。

改憲の足音が高く響きだしているいま、憲法遵守を課せられている公務員であればなおのこと、「九条の会」が発表したアピールを受け止め、改憲阻止のために一人ひとりが努力しなければならぬ。

私は、「平和を守る」「憲法を守る」という言葉で、「私たちのいま続けている日常を守る」と言いきります。友達と会う。会ってビールを飲む。家族と旅行へ出かける。いろいろお喋りして楽しく過ごす。勉強する。すべてこれ日常ですが、これができなくなる。そういうことを防ぐために、このまま続けるために頑張っていく。続けていくその先に子どもたちや孫たちがいて、その人たちが次の時代を受け取っていくのだ、そう考えています。



井上ひさしのプロフィール

1934年生まれ。作家・劇作家。日本ペンクラブ代表、仙台文学館館長。劇団「こまつ座」代表。

NHK「ひよっこりひよたん島」(共作)の台本執筆。直木賞、岸田戯曲賞、読売文学賞など数多くを受賞し、04年に文化功労者に選ばれた。

こまつ座が公演中の井上ひさし作「兄おとと」は、大正デモクラシーの旗手となった吉野作造博士の音楽評伝で、傑作と大評判。2月5日まで東京・紀伊国屋ホールで公演している。

わたしの九条

小澤アイ子

支持と連帯をよせてくれたが、どうしても日程がたれず国税の場での講演は持ち越しとなった。井上さんから直接話を聞けないのは残念だが、改憲阻止の連帯を一層広げなくてはならない。新年にあたり、みなさんに「九条の会」新リーフレットに掲載された井上さんの最新メッセージを届けたい。また、一人の女性市民が、自分の詩が改憲阻止と誰かの力になればと発表した詩も届けたい。国税の若い職員のみならず、女性職員のみならず、日本国憲法が持つ意義と重みを知っている中高年職員のみならず、いまま自分ができる行動を起こそうではないか。

爆弾 作りません
戦艦 買いません
軍隊 いません
他の国 攻めません
永久に 戦争しません
九条 わたしの幸せです
考えが ちがっても
心が 通じなくても
武力は 使いません
話し合いを 積み重ね
平和の中で 解決します
九条 わたしの誇りです

一つ地球の 人類です
世界中 どの人も
人間らしい お付き合い
正義と秩序 棄てません
平和の心 譲りません
九条 わたしの約束です

戦争しかける国があります
攻撃つけてる国があります
平和 壊す国に
平和 壊される国に
日本国憲法 九条 贈りましょう
九条 わたしの意志です

『詩集』「やうならも言えない」より

署名を人事院に提出 の対 時間反 束延 拘

全国税は1月11日、皆さんにご協力いただいた「休息・休憩時間見直し、拘束時間延長反対」の署名を人事院本院に提出します。年末まで5900名を超え、これから署名が寄せられています。本院への提出にあわせて、東京、関東信越両地連は、同日、関東事務局へも要請を行います。